

教員氏名：滝沢和彦（スポーツ教育専攻／教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

スポーツ教育専攻に所属し、1年生必修の基幹科目である「人間形成論」・「教育学概論（幼・小）」・「教育学概論（中・高）」（以上前期）、「教職概論（幼・小）」・「教職概論（中・高）」（以上後期）を担当。また、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「総合ゼミⅠ・Ⅱ」、「教育学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を担当している。

現在は、他大学等での非常勤講師等はしていない。

学外活動としては、一般社団法人全国私立大学教職課程協会（全私教協）で常任理事を務め、また同協会紀要『教師教育研究』編集委員長、質保証に関する特別委員会委員も務めている。

学会関係では、教育実践学会の常任理事を務めている。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

(1) 専門分野の研究者としての理念

専門は教育哲学・教育思想史であり、デューイの教育思想を軸に現代の様々な教育問題について歴史的・原理的かつ具体的に考えてきた。その一端は、編著『教育学原論』（2018年、ミネルヴァ書房）に示されている。

多様な教育問題を、その表面・現象面からだけ理解するのではなく、その問題の歴史的・社会的背景を多様な観点からとらえることの必要性と面白さを学生に伝えたいと思う。

また近年は、上記全私教協の常任理事として、特に私立大学教職課程における「自己点検・評価」の課題に取り組み、「自己点検・評価報告書」作成の手引きを刊行、また同協会の研究大会や研究交流集会において自己点検・評価の在り方や進め方等について研究報告を行ってきた。全国の私立大学教職課程関係者のお役に立てたと思う。

教職課程自己点検・評価に限らず、こうした教育政策・行政の最新の動向を詳細に追跡・分析する作業から得られる知見は教職課程の学生にとっても極めて有用かつ重要なものであり、随時授業で紹介することを心掛けている。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

「人間形成論」「教育学概論」はともに1年生必修の基幹科目として、教育についての原理的考察を行うことが課題である。しかし、学生にとって教育学の学習は初めてなので、学生のこれまでの様々な具体的な経験から出発し、教育と呼ばれる営みが歴史や現代の社会において果たしてきた、そして果たしている多様な役割を伝えたいと考え、両科目においてテキスト『教育学原論』を用いるとともに、ビデオ教材や関係資料の提供に努めてきた。

関係資料では、特に教員採用選考受験希望者のため、必要に応じて中教審答申等の資料（概要）を配布している。

いずれも大人数の授業で、特に教育学概論は教授内容が多いため講義が中心となるが、機会を見てグループ作業を取り入れようとしている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

どの授業でも、まずは基礎学力の育てることに力を入れ、特に書く力については毎回の授業で授業内容に関わる課題についてコメントシートを書かせた。全員に対するフィードバックはできなかったが、書かれた内容について受講者全員で共有することが必要な内容については随時紹介し、また上に述べたように、コメントシートを書く前にグループでの意見交換・共有の機会も可能な限り設け、他者の意見によって自身の視野を広められる契機を提供した。特に学期が始まったばかりの頃にグループでの話し合いをさせたことは、これをきっかけに友人ができた、と好評だった。

学期の初めには数行しか書けなかった学生の多くが、授業が進むにつれて B5 のコメントシート一杯書けるようになっていった。中には裏面まで書き、コメントシート提出の際に「裏まで書きました」と誇らしげに言ってくる学生も出てきた。

毎回のコメントシートには課題とともに授業の感想も書くように言っているが、学生たちはまず課題の文字を書くことに大半のエネルギーを使っており、感想まで書く余裕がなかったかもしれない。毎回のコメントシートはかなり疲れたと思われるが、書く力はどこでも必須の基礎学力、学士力であることを繰り返し強調した。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

強化指定部や初等中等学校体験活動履修の学生等、どうしても欠席せざるを得ない学生

に対するケアがこれまで不十分であった。テキストとパワポ資料はあっても、それらに書かれていない内容を補うのが授業だ、という側面もある。今のところは、(テキスト以外の)当日の資料を配布し、最低限必要な内容についての課題を課して自身に調べさせる等の方法を工夫したいと考えている。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

- 1 滝沢和彦（編著）『教育学原論』ミネルヴァ書房
- 2 令和7年度 第8回人間形成論（前半のまとめ）
- 3 教育学概論（幼・小）（中・高）第15回－令和7年度前期 学修のまとめ－

●上記2 第8回人間形成論（前半のまとめ）

令和7年度 第8回人間形成論（前半のまとめ）

学籍番号

氏名

テーマ1：今の自分はどのようにできてきたのか（価値の明確化）

影響を受けた人、出来事、自身の得手・不得手、自身がこれからやり遂げたいこと

cf, 家庭の影響（風土）、地域からの影響、所属した学校・学級、クラブ・部活、有名人からの影響

テーマ2：「広がる学級崩壊」の問題提起

40人学級、「同僚性」の欠如、「校長のリーダーシップ」の欠如、

家庭・地域社会との連携の欠如（＝学校の閉鎖性）⇔開かれた学校

⇒地域の教育力の活用

- ・学習指導（ex. 総合的な学習の新設）

- ・生徒指導

テーマ3：日本型学校教育から令和の日本型学校教育へ

日本型学校教育とは（資料）

※コロナによる臨時休業措置により再認識された学校の役割と課題

日本型学校教育から「令和の日本型学校教育」へ

※個別最適な学び、協働的な学び

⇒一斉授業の見直し、学級担任制の見直し（チーム担任制）、

特別支援教育（テキスト第15章）

●上記3 第15回教育学概論（前期のまとめ）

教育学概論（幼・小）（中・高）第15回－令和7年度前期 学修のまとめ－

①この科目のテーマと授業の概要についてシラバスで以下のように書いてあります。

教育職員免許法に定める「教育の基礎的理解に関する科目」のひとつであり、「イ教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を考察することが課題である。中学校及び高等学校の教員を養成するという観点から、教育学における基礎的な概念及び教育史における基本的事項の学習から始め、続いて教育史における代表的な思想、特に教育の本質や目的に関わる議論のいくつかを取り上げて、それぞれの思想が時代や文化の制約の中ではあるが、ある教育問題をどう認識し、その問題にどうアプローチしようとしたのかを学びたい。こうした作業によって、現実の教育を様々な角度から見る眼を鍛えていきたいと思う。

②また、この科目を履修する学生が達成すべき学修成果については以下のように書いてあります。

- ・教育の理念や歴史・思想についての基礎知識を身につけている。
- ・学校教育に関する基礎的事項を理解している。
- ・授業で学習したことを踏まえて自分なりの教育観を確立しようとする態度が形成されている。

①について、「現実の教育を様々な角度から見る眼を鍛えていきたい」と書きました。また②では、「授業で学習したことを踏まえて自分なりの教育観を確立しようとする態度が形成されている」と書きましたが、それらはどの程度達成されましたか？

以下、いくつかの授業の具体的なテーマに即して上記に問いについて答えて下さい。



(2025年7月30日現在)